

令和七年度 横浜市退職小学校校長会 俳句部会

③

俳壇

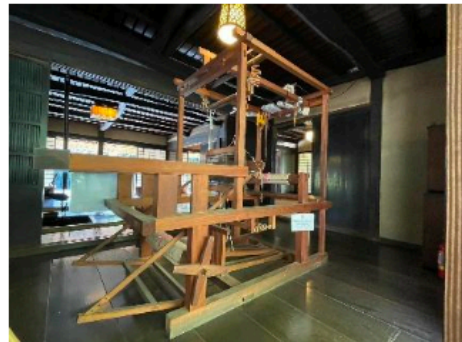
花
水
木

俳句往来 百十一号

十二月席句会作品集(令和七年十二月)

詠むときも読むときも、認め合い高め合う、花水木の仲間

- 体軀にふさわしいリズム感
- 春夏秋冬の五感に触れる季節感
- 自身の心から湧き出る創出感
- 日常に秘めている夢、ロマン、詩心、詩、情感
- 喜怒哀楽に内在する笑い、おかしみ、たわむれ、俳諧味



トツチャカツチャクイ賃織機に母空つ風

信子

この家族の住む地域は冬期特有の空つ風が激しく家をたたく。賃機ちんぱたにいそしむ母（家庭内の女たち）は、そんな季節風をも機織はたおりの軽快なリズムに溶けこませて『トツチャカツチャクイトツチャカツチャクイ』と唄いながら稼ぎ出し、生計の足しにしたのだ。賃機が大流行した頃は村中からこの唄が聞こえたであろう。

機織にまつわる唄は地域によって異なるが、トントンキーとかギーギーボタンといった、擬声擬態のオノマトペで唄われる例が多い。

掲句は、父ちゃん母ちゃんをズバリ唄いこみ、家の主（かかあ天下と揶揄されつつも）家族を盛り立てる女性を季語の空つ風に寄せて、陽気に唄う詩が特にいい。五七五の調子に世情の言葉の意味を詠いこむたくみの句だと思う。

花水木顧問 福田福郎

十二月句会の作品 左隣は選者(☆は自薦)

作者

朝顔が一息ついた今朝の風

英子

☆伴・鷺山・小坂・荒井

里山の栗のいがむく子らの声

定雄

高橋郁・月田・川口・伴

愛犬の玩具寂しや雲高し

鷺龍

伴

秋蝶の小影小影へ連れ立って

一雄

相澤・鷺山・吉野

ビル群にぽつんと一人真白富士

美明

堀井・大石・小坂

京急の車窓かがやく蜜柑山

金雄

高橋郁・荒井・前橋

縁側に猫とじゃれ合う文化の日

桑原・月田

福郎

絵本の中は皆やさしい熊ばかり

福田・荒井

信子

老い楽し友の栗飯同期会

相澤・高橋定・大石・川口・小坂

和子

小春日や窓越し揺れる花ハツ手

☆堀井・野村・山本・小坂

佳一

振り下ろす鋏に声あり甘藷掘る

中澤・野村・鷺山・吉野・宮澤・大石・福田・伴・前橋

篤

一房のぶどうわけあい舌つづみ

桑原

尚之

休耕田一鋤入れて稲たわわ

郁枝

☆高橋郁・高橋定・野村・川口

庭の虫ドアの音にも鳴き止まず

映夫

鷺山・堀井

友のハグやさしくつよく秋夕焼け

啓子

☆野村・高橋郁・中澤・福田・前橋

尼寺に今を盛んと彼岸花

淳子

桑原・月田・宮澤・大石・山本・小坂

蒲郡俊成卿も秋好日

正子

野村

名利を山懷に紅葉晴

竹之

堀井・月田・宮澤・大石・小坂・荒井

「あいこでしよ」孫の下校の秋高く

誠

☆吉野・高橋定・中澤・福田・伴

今朝の風楽しむ間なき寒さかな

美明

桑原・山本・小坂

夏超えて熟れしゴーヤの種を取る

英子

相澤・高橋定・堀井

竹春の日矢の幾筋尼の庵

信子

桑原・高橋郁・野村・吉野・大石・福田・川口・前橋

大池の鳶の一羽の天高し

一雄

☆宮澤・高橋郁・大石

空壕^{からぼり}にすすき茂りて城守る

郁枝

相澤・吉野・月田・大石

惚け出しの散歩順路や冬紅葉

福郎

☆福田・山本

赤とんぼ鷹取山越ゆる幾百千

金雄

野村

秋色の足尾銅山岩隠し

定雄

前橋

柿に熊ゐる吹き矢的中角館

誠

夕空の風にとどまる赤とんぼ

竹之

桑原・高橋定・中澤・堀井・月田・宮澤・大石・小坂・荒井

小さき秋スプンに盛りて病む母へ

和子

相澤・桑原・野村・鷺山・吉野・福田・山本・川口・伴・小坂・荒井・前橋

青空と銀杏黄葉が奥床し

淳子

山本

コンコンと椎の実落ちるトタン屋根

佳一

高橋郁・高橋定・鷺山・宮澤・小坂

白犬と歩きし浜に百合鷗

鷺龍

☆鷺山・野村・小坂

中高生も瞳に宿す紅葉なり

正子

☆桑原・鷺山・堀井・吉野・伴

松手入ボクにさせてと使ひの子

篤

虫の声鳴くのを止める寒さかな

映夫

☆小坂・相澤・堀井・山本・川口

鳴くことに努力するぞと虫時雨

尚之

天高し竹千代君のお隣に

啓子

立冬の空の広さの頼もしや

一雄

相澤・高橋郁・高橋定・中澤・川口・伴

孫の手に散歩に行こうとねこじゃらし

英子

野村・堀井

トツチャ、カツチャ、クイ賃ちんば織機たに母かか空つ風

信子

☆中澤・月田・福田・前橋

犬去りて夕焼け早き散歩道

驚龍

高橋郁・堀井・伴

わが庭の鈴なりのみかんおすそわけ

鷺山・高橋定

映夫

歩行器はわが分身よ小春風

高橋郁・中澤・鷺山・吉野・宮澤・大石・福田・川口・小坂

竹之

手拍子や時に歓声一の酉

相澤・桑原・中澤・月田・福田・山本・川口・荒井・前橋

金雄

冬木立彼方に光る灯しあり

宮澤・伴・小坂

佳一

月が見る青い地球のガザ地区を

☆高橋定・桑原・野村・月田・山本・川口・荒井

定雄

大相撲升席のなか和が育つ

尚之

幼子が落ち葉と遊ぶ傳通院

淳子

桑原・中澤・堀井

冬隣於大の方の墓所を訪ふ

啓子

相澤・中澤

富士山の裾野のすすき飛驒の屋根

郁枝

大根引き雲丹沢へ流れ行く

篤

桑原・中澤・鷺山・吉野・宮澤・前橋

柿一つそれはそれとし供えたり

正子

堀井・宮澤・福田

ちろろちろ薬師如来に静寂あり

誠

宮澤・山本・荒井

秋景色見たし触れたし熊怖し

美明

相澤・高橋定・野村・吉野・月田・伴

投薬を拒む眼虚ろ秋の蟬

和子

☆月田・吉野

吾が家にて熊と遭遇！有りそうな

福郎

高橋郁

焼津港吹き寄せる風みかん山

郁枝

愛犬の小さき冬服簞笥へと

驚龍

吉野・川口・伴

汗ひとつ西の空には星ひとつ

英子

齡重ね思い薄らぐ年の暮

美明

☆川口・堀井・吉野・宮澤・伴・前橋

鋏鎌研いで勤労感謝の日

篤

☆荒井・相澤・大石

大根する怒ってなんぞおりません

信子

高橋定・福田・大石・伴・荒井

孫笑顔小春日和と誕生日

正子

山本

秋深しこたつのふとん陽に当てる

映夫

福田

大空襲語る石塔落ち葉降る

淳子

☆相澤・桑原・高橋郁・高橋定・野村・鷺山・月田・川口・前橋

天空にオリオン探す遥かなり

尚之

☆山本・川口

独り居の友のメールと夜長かな

誠

高橋定・野村・鷺山・宮澤・福田・前橋

青海に真向い大根干されをり

福郎

相澤・桑原・高橋郁・中澤・月田・荒井・前橋

はらからか呼んでるやうな寒昂

金雄

☆大石・中澤・堀井・吉野・宮澤

寒暁の伽藍に響く二柏手

和子

にかしわで

相澤・山本

二重三重重なり合うや柿落ち葉

佳一

中澤・大石・荒井

鶏鳴に目覚むる十二月八日

竹之

☆前橋・鷺山・荒井

立冬や明日のケアハウス楽しみに

一雄

高橋郁・鷺山

十五夜の出逢う軌跡の二人かな

定雄

山本

緑なる小さきバツタの枕に来

啓子

高橋定・月田

編集談話室

◇令和七年度、俳句部の改革は続いています。俳句往来百十一号では、グーグルフォーム、FAX等で寄せられた全員の俳句を一覧表にし、アトランダムにABCD群に分けて句会資料を作成。句会欠席の方には郵送して選句してもらいました。部員十九名(十二月三日の句会参加者七名)の句と選句者をまとめて句集にしました。手作業の頃とグーグルフォームの活用と、隔世の感があります。グーグル環境構築の鷺山、パソコン編集担当の高橋(郁)、野村の尽力で完成させることができ、こんなに嬉しいことはありません。ゆっくりお読みいただければ幸いです。百十一号から参加の新部員は、送付状で紹介しします。次年度からは、俳句講師等もお招きする機会を作り部員一同切磋琢磨し、よりよい俳句作りをしたいと思います。

(部長・高橋定雄)

◇次の句会は、三月の誌上発表となり、応募作品を表題付きで、花水木百十二号に載せ発行します。

・季題は新年〜春で四句。

・表題(タイトル)、作者名、俳句四句を楷書で記入。

投句された方の趣意を大切にするために、読み間違いのない字体(必要ならふりがな)で、よろしく願います。

・締切日は、二月五日(木)必着でお願いします。

同封の投句用紙を活用、郵送、FAXでもどうぞ。

★スマホ、PCなどで、QRコードを読み取り、グーグルフォームで投稿する方も少しずつ増えています。慣れればその日に届きますので、お試しください。

発行 横浜市退職小学校長会俳句部

代表 高橋定雄

発行日 令和七年十二月吉日

編集・印刷 花水木百十一号担当幹事

